

令和7年度 深浦・いわさき小学校森林体験学習

令和7年6月17日（火）深浦町松神山国有林において、深浦小学校の4年生16名と、いわさき小学校の4年生7名に対し、津軽森林管理署・津軽白神森林生態系保全センター・深浦町で協力して、森林体験学習を行いました。

遊歩道を周遊しながら植物探しをするネイチャーゲームと鋸を使用した丸太切り体験を通して、白神山地を含めた十二湖周辺の多様な植生や地元産業である林業について学習することを目的としています。

当日は、薄曇りで肌寒いくらいでしたが、子供たちはものともせず元気に出発していきました。丸太切りでは、顔を真っ赤にして鋸を引く子や、落ちた鋸くずの肌触りに感激する子などそれぞれ自分の感じるままに行動していました。「引くときに力をいれないとギョギョ切れなくて、意外と大変だった」「（丸太が切れて）落ちると嬉しい」「（切った切り口から）スイカの匂いがする」と子供たちは鋸で丸太を切る難しさを実感しているようでした。

植物探しでは、「ヤマモミジが最後まで見つからなかったけど、なんとか見つけられてよかった」「マムシグサが難しかった」「（葉っぱの）区別があんまりわからないし、難しかった」という感想をもらいました。植物ごとの葉の区別がわかりにくいと言いつつ、最後には名前を覚えるまで必死に探した子供たちは、植物を見つけた証である赤丸がいっぱいついたビンゴカードを嬉しそうに見つめていました。

『山に生えている植物とはどんなものか』『木を切るとはどういうことか』を画面越しではなくリアルに経験することが出来たようです。

私も子供たちの素直な感想を聞いて、白神山地周辺の森林生態系の豊かさを再度実感することができました。今後は、造林などの木を育てていく林業の面白さも伝えていければと思います。



大変だけど楽しい

津軽森林管理署 主任森林整備官 梶本 愛



これから頑張るぞ



説明を聞いても難しい